

政策 3. 活力ある産業（雇用・勤労者福祉の充実）説明概要

■産業とは

- ・農林水産業、商工業、企業連携・誘致、観光などいろいろな分野がある。
- ・産業の活性に雇用の創出は欠かせない。両輪のような関係。

■現状と課題

- ・多くの若者が市外で就職。それによって、市外、県外に出て行ってしまう。
- ・三重県＝「人材流出県」高校卒業後 80%以上の方が県外へ進学、卒業後も多くが県外の企業へ就職するという流れ。北へ東へという志向がある。
- ・市内の事業所数 7,825（H28 年度経済センサスより）
- ・中小企業は人手不足。人材が確保できないと衰退し産業活性・地域活性ができない。
- ・大学生、短大生、高専生、高校生、若者の声。「市内にどんな企業があるのか知らない。」「地元には自分のやりたいことがない。」知らないことによる「思い込み」？
- ・国（ハローワーク）や県と連携して情報発信に取り組んでいかないといけない面がある。
- ・情報発信の一環として、ガイドブックの作成、HP 上での公開、地元高校で地元企業人による講演会、高専生や大学生のバスツアー、先生方の企業見学会などを実施している。
- ・製造業で言えば、高い技術力を持った企業は多い。中核工業団地で航空機部品の生産が始まった。愛知県、岐阜県等の会社 10 社で構成される航空機部品生産協同組合。また、日本初進出のゲスタンプ（スペイン）は、嬉野天花寺町の嬉野工業団地に立地協定を締結した。
- ・地元就職率 1 位はお隣、愛知県。地元は自動車産業・航空機産業が強いという認識。
- ・松阪には満遍なくある。しかし情報収集しないと何があるかわからないといった現状。
- ・進学する生徒にも、地元にはどんな企業があるのか知ってもらうことが大切。将来的に色々な事情で戻ってくることを想定。（卒業、一旦就職して辞めて帰ってくる、転職、家庭の事情など）
- ・地元で働くことのメリット：子どもを親に面倒みてもらいやすい。実家なら家賃がかからない、地元の友人と会いやすい。地元を元気にできる。CSRの一環で地元のまつりに社員で参加する企業もある。
- ・地元の企業が儲かれば、雇用が生まれる。雇用が生まれれば、地元の消費が増える。経済が回る。
- ・「知ることで愛着が湧く」
- ・どうしたら地元に残っていただけるか、若い方に盛り上げてもらえるか。

■障がい者雇用について

- ・障がい者雇用率が県内最下位。
- ・10月21日（土）華王殿にて「障がい者の雇用・就労促進フォーラム」を開催予定。障がい者雇用への理解を進めたい。